

2018年

秋の課題作文優秀作品

【小学部】

センター北校 S・Aさん（中川小）

成年年齢が引き下げられると聞いて、最初は実感がわきませんでした。私からしたら中学生・高校生・大学生はみんな大人のようなものです。年齢はまだ大人とは呼べませんが、私達の知らない知識を持ち責任感もあります。そんな人は私の考える「大人」という存在です。

逆に、こんな人は「大人」と呼べないと思います。例えば、年だけをとって自身を成長させようとしめない、そのくせ偉そうにいばる人です。そんな人は「大人」ではなく、年だけをとって中身はまだまだ子供のよう感じます。辛いことや悲しいことを受け入れて、悩み苦しんでもそれを乗り越えた人がまた一歩成長できると思います。この成長をくり返して、毎日楽しいと思えるような人が、私の考える理想の「大人」です。つまり、責任感があり日々成長し続けることのできる人が私の考える「大人」の条件です。

私が理想の大人に成長していくために、二つのことを考えました。一つ目は、何事にも挑戦していく気持ちです。自分がやりたいと思ったことに挑戦して、いろいろなことを見たり聞いたりしたいと思います。二つ目は、何事にも一生懸命に取り組むことです。自分がやりたくないことや仕事でもきちんと一つ一つこなしていきたいです。

これからは、毎日を大切にして日々成長していきたいです。そして、理想の大人を目指して頑張ろうと思います。

【中学部】

十日市場校 M・Cさん（十日市場中）

成年年齢の引き下げ。私はこの改正民法に賛成です。世の中では賛成の声も上がる中、反対だという意見も多く耳にします。理由としては、引き下げても大人としての自覚を持つとは思えない、経済的に自立していないなどです。では、なぜ私は賛成なのか。その理由は二つあります。

一つ目は、若者がこれからの日本を作っていくからです。少子高齢社会である今、若者の言葉や行動一つで新たな日本が築かれていくと思います。成年年齢が一八歳へと引き下げられることで、若者が自分の意見を発信しやすい世の中が変わっていくと思うのです。

二つ目は、一八歳という年齢に対する見方が変わってきていることです。日本では、二〇一四年、二〇一五年の改正により一八歳以上の国民には選挙権が認められるようになりました。つまり、政治に参加のできる一人の立派な大人であるのです。私は成年年齢を引き下げること、大人だという自覚をもった人が増えるのではないかと思っています。このような理由から、私は改正民法に賛成です。ただし、成年年齢が引き下げられたからといって今まで二〇歳であった法律が全て一八歳になる訳ではありません。そこで私が気になったのは、少年法の適用についてです。

現在日本では、一四歳以上、二〇歳未満の犯罪者や非行者に対して、成人とは異なる特別な処分が与えられる少年法という法律が適用されています。この少年法の対象年齢も成年年齢引き下げに伴い、一八歳未満に引き下げるべきか、まだ検討が続けられています。選挙権を持ち、民法上も成人と認められる一八歳。私は少年法の適用についても同じ方針でいくべきだと考えています。

そして私も、これからの日本を作っていく若者の一人です。他人事だと思わず、自分自身しっかりと自覚を持ち、立派な大人になりたいと思っています。

センター北校 A・Uさん（中川中）

私は十八歳から成年になって嬉しい。理由は、社会での色々な問題も若い人たちの意見で何か変わるかもしれないし、これからの未来を創っていくのは若い人たちだからだ。

私が考える大人の要件は三つある。一つ目は、与えられた仕事を最後まで責任を持ってやり遂げることだ。二つ目は、この世の中にある全ての人や物を大切に扱うことだ。三つ目は、自分の頭で考えて答えを出し、行動することだ。

最近、インスタ映えのことばかり気にして、見栄えのしない黒猫を捨てる人までいるそう。他にも、スマートフォンを手放せずに自転車に乗りながら使用している人がいて、事故が増えている。さらに、公共施設や民家への落書きを見かけることも多い。いくら年齢を満たしていても、行動が伴わなければ大人とは言えない。ただ周りに合わせて流行りにのるのではなく、自分で考えて行動していくのが大人だと思う。日本でも四年後から十八歳が大人だと認められている。そこには、多くの責任が伴い、自分でそれを負って決断していかなければならぬということだ。今、日本の多くの十八歳にそれができるだろうか。日本人はこの遅れを取り戻すために、一人一人の努力が必要だと思う。

私自身がこれら三つの要件を満たす大人になるために、まず家族や友達、周りの人だけでなく自分自身も大切にしながら色々な経験をしていきたい。その中で、自信を持って主張できるように自分の意見をしっかりと持ちたい。また、自分とは違う意見の人も受け入れられるようになりたい。十八歳まであと五年、やらなければならないこと、得なければならない知識、考えなければならないことが、私にはたくさんある。その道のりは厳しいが、勇気をもって大人に近づいていきたい。そして、これからの「未来」を創っていきたい。

Ⅱ 特別賞Ⅱ

特別賞受賞作品に関しましては、受賞理由となった秀逸な表現を抜粋して掲載します。

【中学部】

長津田校 S・Mさん（田奈中）

く前略く

私が考える大人とは、ボーダーラインを理解している人だ。つまり、社会の常識を分かっている人だ。社会の常識とは、人生経験を重ねる度に学ぶものだと思う。よく部活は社会の縮図といわれるが、私の入部している吹奏楽部でも失敗を重ねるにつれて部の伝統やルールを学んでいった。だから私は、立派な成人になる為にはたくさんさんの経験をし、失敗を乗り越えることが必要だと分かった。

そのためにも、今、自分がすべきことはたくさん挑戦することだ。失敗するか成功するのかわからないが、怖がって挑戦しないと何の経験にも繋がらないし、大人への道は閉ざされてしまう。失敗したとしても新たな知識を得ることができるとし、同じ失敗を繰り返さなければ大人への一歩になると思う。十八歳で成人という事実が変わらないから、その時にきちんと成人としての責任を負えるように高校でも部活や勉強に励みつつ、新しい何かに挑戦して人生経験を重ねていきたい。